

報道発表資料
平成20年5月28日
気 象 庁

第133回気象記念日について
－「気象業務はいま 2008」を刊行します－

平成20年6月1日（日）は、第133回気象記念日です。気象庁では次の記念行事等を行います。

- 1 6月2日（月） 第133回気象記念日式典を行います。式典の概要は別紙1－1、気象庁業績表彰受賞者は別紙1－2のとおりです。式典は報道機関に公開します（会場内での撮影が可能です）。
- 2 6月1日（日） 「気象業務はいま 2008」を刊行します。概要は別紙2のとおりです。
- 3 6月20日（金） 気象記念日講演会『今までの気象とこれからの気象－地球温暖化を考えよう－』を開催します。概要は別紙3のとおりです。

※ 気象記念日は、気象庁の前身である東京気象台が明治8(1875)年6月1日に設立されたことを記念し、昭和17(1942)年に制定されました。

本件問い合わせ先：気象庁総務部総務課広報室
電話 03-3212-8341 内線(2117)

第 133 回気象記念日式典（概要）

1 日 時 平成 20 年 6 月 2 日（月） 11 時 00 分～11 時 40 分

2 場 所 気象庁講堂

3 式典次第

開式の辞

国歌斉唱

気象庁長官式辞

国土交通大臣あいさつ

国土交通大臣表彰

気象庁長官表彰

閉式の辞

第 133 回「気象記念日」 気象庁業績表彰受賞者名簿

【国土交通大臣表彰】

1. 船舶：気象通報 1 隻

番号	被表彰者	功績事項	備考
1	独立行政法人海洋研究開発機構 白鳳丸 殿	気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績	平成 17 年 長官表彰

【気象庁長官表彰】

1. 気象行政の推進に寄与した功績 4 団体

番号	被表彰者	功績事項
1	日立市天気相談所 殿	多年にわたる予報業務許可事業者として気象業務の健全な発展に寄与した功績
2	株式会社 日本航空インターナショナル 殿	航空機自動観測気象データのリアルタイム提供及び多年にわたる航空路機上観測業務への協力による各種航空気象情報の精度向上に寄与した功績
3	全日本空輸株式会社 殿	航空機自動観測気象データのリアルタイム提供及び多年にわたる航空路機上観測業務への協力による各種航空気象情報の精度向上に寄与した功績
4	東京大学名誉教授 溝上 恵 殿	多年にわたる地震予知情報業務の推進に寄与した功績

2. 委託観測所 33 団体

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者
1	しかの野 鹿野	杉森 英俊 殿
2	ほくと 北斗	北海道立道南農業試験場 殿
3	やぐも 八雲	八雲町消防本部 殿
4	あしべつ 芦別	芦別市消防本部 殿
5	はまます 浜益	北石狩農業協同組合 浜益支所 殿
6	ほべつ 穂別	むかわ町 殿

番号	観測所名	被表彰者
7	かにた 蟹 田	外ヶ浜町 殿
8	ふるかわ 古 川	宮城県古川農業試験場 殿
9	そうま 相 馬	福島県農業総合センター 浜地域研究所 殿
10	やまとやま 大和山	学校法人大和山学園 松風塾高等学校 殿
11	つしま 津 島	浪江町役場津島支所 殿
12	かしわぎ 柏 崎	新潟県立柏崎総合高等学校 殿
13	おせ 小 瀬	茨城県立小瀬高等学校 殿
14	なかのじょう 中之条	中之条町立中之条小学校 殿
15	だいに 大 子	茨城県立大子清流高等学校 殿
16	のざわおんせん 野沢温泉	野沢温泉村 殿
17	かしま 鹿 嶋	茨城県立鹿島高等学校 殿
18	はくば 白 馬	白馬村 殿
19	かゆみ 粥 見	松阪市立粥見小学校 殿
20	しもせき 下 関	関川村立関小学校 殿
21	やわた 八 幡	北広島町役場 八幡出張所 殿
22	みなみこまつ 南小松	大津市立小松小学校 殿
23	ゆすはら 栲 原	栲原町立栲原中学校 殿
24	たいしょう 大 正	四万十町立大正中学校 殿
25	いろかわ 色 川	那智勝浦町立色川中学校 殿
26	ほんぐ 本 宮	田辺警察署 本宮幹部交番 殿
27	おおどまり お王 泊	中国電力株式会社 広島北電力所 殿
28	なかつ 中 津	中津市消防本部 殿
29	ぶんごたかだ 豊後高田	豊後高田市役所 殿
30	さいき 佐 伯	佐伯市消防本部 殿
31	くす 玖 珠	玖珠消防署 殿
32	うすき 白 杵	臼杵市消防本部 殿
33	ごや 胡 屋	財団法人 沖縄こども未来ゾーン運営財団 殿

3. 委託観測所（航空） 1 団体

多年にわたり航空気象観測業務を遂行し航空機の安全運航に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者
1	にいじま 新島航空気象観測所	新島港湾空港管理事務所 殿

4. 船舶：気象通報 3 隻

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	船名
1	エム・オー・エルエヌジー輸送株式会社	エネルギーフロンティア 殿
2	アクトマリタイム株式会社	SOLAR WING 殿
3	ケイラインシップマネジメント株式会社	GENOA BRIDGE 殿

5. 船舶：表層水温・海流通報 2 隻

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	船名
1	独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所	みずほ丸 殿
2	福井県水産試験場	福井丸 殿

6. 漁船 8 隻

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	漁船名
1	丸新商事有限会社	第11 広栄丸 殿
2	濱口 正樹 殿所有	第2 正洋丸 殿
3	浜田水産株式会社	第6 共進丸 殿
4	橋本 幹雄 殿所有	光栄丸 殿
5	有限会社 紀州丸水産	第十一紀州丸 殿
6	長運水産株式会社	第一長運丸 殿
7	村瀬 和夫 殿所有	栄正丸 殿
8	静岡県水産技術研究所	遠洋漁業練習指導船 富士丸 殿

「気象業務はいま 2008」の刊行について

1. 概要

- ・「気象業務はいま」は、広く国民の皆様に、気象庁の業務の全体像をご理解いただくことを目的として刊行しています。
- ・気象庁では、平成 7 年から「今日の気象業務」を刊行し、平成 14 年に名称を「気象業務はいま」と改め、今回で 13 回目の刊行となります。
- ・「気象業務はいま 2008」は、昨年の I P C C 第 4 次評価報告書公表や本年の北海道洞爺湖サミット等を通じて内外の関心を集める地球環境問題に対しての気象庁の取り組みを取り上げた内容とし、6 月 1 日に刊行します。

2. 特色

- ①特集では、地球環境の監視と予測に向けた取り組みを中心に紹介しています。特集タイトルは「不確実な未来から、確かな明日へ - 気象庁の地球環境問題への取り組み -」
- ②トピックスとして、気象庁における新たな取り組み、平成 19 年度 of 自然災害の状況等の記述を充実しています。さらに本書の各所には、具体的な取り組み事例、参考情報等を紹介したコラムを拡充しています。

3. 内容

本書の構成は別紙のとおりです。

なお、付録として、本書の全内容に加え、天気図や気象衛星画像のデータなどの豊富な参考資料を収録した **CD-ROM** を添付しています。

本書についてのご意見・ご感想を下記のメールアドレスで募集しております。お気軽にお寄せいただけましたら幸いです。

ご意見は、業務の改善の参考とさせていただきます。

メールアドレス : goiken@met.kishou.go.jp

「気象業務はいま 2008」の構成

- 特集 「不確実な未来から、確かな明日へ
—地球温暖化問題への気象庁の取り組み—」
- ・地球温暖化監視と予測情報の提供
 - ・異常気象情報や季節予報の提供
 - ・環境気象情報の提供
- についての気象庁の取り組みを紹介。

○トピックス

- (1) 緊急地震速報の広く国民への提供開始
- (2) 火山現象に関する警報・予報等の発表開始
- (3) より精度のよい津波警報に向けて
- (4) 平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震
- (5) 平成 19 年台風第 4 号及び梅雨前線による大雨と暴風
- (6) 秋雨前線による大雨
- (7) “竜巻注意情報” の提供開始
- (8) 市町村等が行う防災対応を支援する気象警報・注意報の改善に向けて
- (9) アメダス観測所における最大瞬間風速の提供開始
- (10) 国内最高気温の記録更新

○第 1 部 気象業務の現状と今後

第 1 章 国民の安全・安心を支える気象情報

- (1) 気象の監視・予測
- (2) 地震・津波と火山の監視・予測
- (3) 地球環境・海洋の監視・予測

第 2 章 技術開発・研究開発の推進

- (1) 大気・海洋に関する数値予報技術の開発・改良
- (2) 地震・津波・火山に関する研究
- (3) 地球環境・海洋に関する研究

第 3 章 気象業務の国際的広がり与世界への貢献

○第 2 部 最近の気象・地震・火山・地球環境の状況

- (1) 気象災害・台風など
- (2) 地震活動
- (3) 火山活動
- (4) 天候、異常気象など
- (5) 地球環境・海洋

○参考資料

主な気象官署、用語集、索引、CD-ROM ユーザーガイド

付録：CD-ROM

本書の全内容

参考資料（気象庁の沿革と主な出来事、気象注意報・警報の種類等、近年の日本及び世界の天候、津波予報・津波情報の種類等、気象・地震・火山等の記録、気象情報の提供の概要）

付録資料（天気図、静止気象衛星画像、日本気候図、日本気候表、極値表、月別値一覧表、台風経路図、台風位置表、南極のオゾンホール衛星画像、地球温暖化予測情報、北西太平洋月別海面水温の平年値、太平洋の海面水温平年偏差図、地震・火山月報（防災編））

参考（表紙）



気象記念日講演会

『今までの気象とこれからの気象－地球温暖化を考えよう－』の開催について

本年7月7日に開催される北海道・洞爺湖サミットでは地球温暖化対策が中心議題となります。これを機に、地球温暖化に関する正しい知識の普及を推進するとともに、地球温暖化対策の必要性をご理解いただくことを目的に気象記念日のイベントのひとつとして講演会を東京で開催いたします。

本講演会のテーマは『今までの気象とこれからの気象－地球温暖化を考えよう』として、地球温暖化の現状と予測、社会的な影響に関する科学的知見を伝える講演とともに、地球温暖化に伴う悪影響への対策や、増加する自然災害を回避するための取り組みについての講演を行います。

- 1 期日 平成20年6月20日(金)
時間 受付・開場 17:00 開演 17:30 終演予定 20:10
- 2 場所 日経ホール(大手町 日本経済新聞社8階)
- 3 実施 主催：国土交通省気象庁
後援：(社)日本気象学会、(財)気象業務支援センター、
(財)日本気象協会、日本気象予報士会
- 4 実施内容
演題1：「地球温暖化に関する最新の科学的知見」
講師：高野清治 気象庁地球環境・海洋部気候情報課長
演題2：「地球温暖化の影響と社会を守る対策」
講師：三村信男 茨城大学教授・地球変動適応科学研究機関長
演題3：「温暖化克服へ向かうメタルカラーの日本力」
講師：山根一真 ノンフィクション作家
- 5 参加方法
入場無料(定員500名)、内容的には高校生以上を対象にしています。
予 約：はがき or 気象庁HPからの事前予約が必要です。
締切は6月13日です。
- 6 問合せ先 気象庁広報室 TEL03-3212-8341(内線)2126
- 7 参考 地球温暖化に関する情報は、下記ホームページをご覧ください。
気象庁地球環境ポータルサイト <http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/portal/>